



個人投資家応援します * 株式新聞友の会 * 豪華特典がいろいろ

NEW

株式新聞オリジナル
今日の個別株価ジャッジ

銘柄コード又は名称の一部を入力してください

 [トップ](#) > 株式新聞コラム

 株式新聞コラム 2006年9月11日~2006年9月15日

2006年9月11日

「面白い」と思う本にはなかなか出会えない。年に1、2回あるかないかだ。ところが、この夏は久々に「面白い」と思える本に出会えた。「コルナイ・ヤーノシュ自伝」(日本評論社)。

ハンガリーの経済学者で、社会主義システムが機能不全に陥り、いずれ体制転換せざるを得ないことを、西側世界に亡命することなく東欧圏に居ながら初めて論証した。「机上の空論」に終わらない実証的な研究で知られ、主著「『不足』の政治経済学」(邦訳絶版)は学術書としてだけでなく冷戦終結のきっかけの一つともなった。

経済学者の自伝は自慢話か無味乾燥な学説解説に終始して大概面白くない。ところが、「自伝」は社会主義体制の崩壊と市場経済への移行期を身をもって体験した一知識人の歴史証言とも読めるし、マルクス主義からスタートしながらも、その後、決別し独自の体系を築き上げた思想遍歴とも読める。副題は「思索する力を得て」。

「思索する力」とは「与えられた条件の中で、“知恵を絞る”力」と読み替えても良い。経済学者だけでなく知恵を絞る力がなくなれば、企業は生き残れないし成長できない。住友化(4005)。(平理)
